

パーム油の用途／産業のあり方を考える

—食用から燃料への転用は是か非か—

第1回 2010年代前半までのパーム油の主要用途と当該産業の形成・発展

第2回 2010年代半ばの転換点 —パーム油の需要・供給・環境面の制約の顕在化—

第3回 何が問われるべきか —東南アジア現地／世界全体 双方の視点から—

概要

熱帯植物のアブラヤシから採れるパーム油は、現在、植物性油脂のみならず、動物性油脂を含めた再生可能油脂のなかで世界最大の産出量を誇っている。インドネシア、マレーシア等東南アジア諸国を中心に、年間およそ7000万 ton 生産され、日本を含む世界各地に輸出されて様々な用途に用いられている。その生産量は、1990年代末頃から2010年代半ばにかけて急激な増大を続けてきたのであるが、近年、需要面（特に世界向けの輸出）に陰りがみえるとともに、2大生産国であるインドネシア、マレーシアの国内でも、供給面、環境面での制約が顕著になってきている。そうした曲がり角の局面にあって、この先、パーム油関連産業はどのような方向に展開していこうとしているのだろうか。今回の講座では、近年インドネシア政府が取組んできている、パーム油のバイオディーゼル油としての使用促進策がもつ意味とそれがもたらす影響を中心に、パーム油の用途と関連産業のあり方について考えていきたい。

同志社大学今出川キャンパス案内図



▼最寄駅

京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅

J R

「京都」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

京阪・叡電

「出町柳」駅より西へ徒歩15分、
または市バス201号・203号で西へ約5分

近 鉄

「竹田」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

阪 急

「烏丸」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

会場へは公共交通機関をご利用ください

【駐車場はありませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください】